



施策コード	5-1
-------	-----

中心所管課	交通防犯課
関連所管課	

第5章	人と人がつながり快適な暮らしを支えるまちづくり -都市基盤整備-							
基本施策名	1 公共交通							
総合計画の目標指標								
指標名	単位	策定時	実績値			目標値		SDGs独自指標
		R2	R3	R4	R7	R12		
バス路線利用者数	人	168,000	105,887	110,557	175,000	176,000		
鉄道駅から1km、バス停から300m内の居住者割合	%	89.7	89.7	89.7	92.0	93.0		
日常の移動に不便を感じている人の割合	%	31.0	-	-	30.0	29.0		

施策の内容(主な取組)		
単位施策名	実績・成果	今後の方向
1 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地解消	運行支援を継続実施。西浦地区で支線バス運行に向けた協議を開始。蒲郡北部地区で乗継タクシー事業の実証実験を開始。	鉄道・路線バスの運行支援を継続し公共交通の維持・確保を図る。西浦地区でのコミュニティバス運行開始を目指し、残る空白地の解消を進める。
2 関係者間の連携強化による事業推進	公共交通会議、地区協議会の実施。西尾市、名鉄との連携合意書に基づく利用促進の取組みを実施。	名鉄西尾・蒲郡線の運行継続協議に向け、西尾市と連携を図る。地区協議会の継続実施。
3 持続性のある公共交通の確保	公共交通会議での事業評価の実施。地区協議会における住民主導の協議の実施。乗り方教室・乗車体験実施。	交通計画に基づき、公共交通会議での事業評価の継続実施。財政負担の見込み確認や幹線・支線の役割分担をふまえた最適化のため、再編検討調査を実施する。

個別計画の目標指標								
計画名	蒲郡市地域公共交通計画				計画期間	令和3年度～令和7年度		
指標名	単位	策定時	実績値			目標値		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R12
名鉄西尾・蒲郡線(吉良吉田・蒲郡間)利用者数	人	1,210,000	1,253,000	1,314,000			1,550,000	-
民間路線バス総利用者数	人	107,000	106,000	111,000			160,000	-
支線バス総利用者数	人	6,423	11,353	13,130			増加	-
支線バス収支率	%	形原:11.0 東部:7.7 西部:5.9	形原:12.1 東部:5.6 西部:6.3 三谷:6.7 大塚:6.7	形原:10.8 東部:5.4 西部:5.9 三谷:8.4 大塚:5.1			10%以上	-
高齢者タクシー運賃助成事業利用者数	人	2,867	2,926	2,968			3,500	-

主要事業の実績評価					
施策番号	事業名	事業費(千円)		実績(R4年度)	今後の方向
		R4(決算額)	R5(予算額)		
		人工			
1	支線バス運行事業	25,138	37,271	形原・東部・西部・三谷地区継続運行。 形原地区運行日数増加(週3→週4)	事業継続、運行改善し、利用者増加を図るとともに、交通空白地解消を進める。
		1.0人工			
1	高齢者タクシー運賃助成事業	15,664	17,878	継続実施。R3比で利用者数等増加。	継続実施する。
		0.3人工			
1	情報発信	539	400	公共交通マップ、地区時刻表更新、GTFS対応	利用促進には周知が最も肝要であり、継続実施する。
		0.2人工			
2	名鉄利用促進事業	3,183	6,960	名鉄・西尾市と連携して、貸切列車企画、位置情報アプリゲームとのコラボ等新たな事業を実施。市民まるごと赤い電車応援団活動の継続実施。	引き続き、名鉄・西尾市と連携して、利用促進・PRを図っていく。
		1.0人工			
3	公共交通会議	3,690	3,634	4回実施。国への補助申請、支線バスの事業継続などを協議。	適切に実施し、関係者間の連携、事業評価等を継続して行っていく。
		1.0人工			

総括評価	成果	支線バスの利便性向上のため、形原地区で令和4年4月から週4日に拡大した。他の4地区においても、令和5年4月から週4日運行に拡大することの協議が整った。名鉄利用促進事業では、名鉄・西尾市との三者連携合意書に基づく緊密な連携に基づき、新規事業を実施したことで、幅広い層ににしがま線をPRできた。
	課題	コロナ禍の収束に伴い、利用者は増加傾向だが、コロナ禍前の水準まで回復せず厳しい状況が続いている。とくに、路線バスについては、減便もあり大きく減少したままとなっている。また、タクシーについても、バス同様に運転手不足が顕著で、現状のサービス水準の維持確保が困難な状況となっている。
	今後の方向	交通空白地の解消を進める一方、地区ごとに運行してきた支線バスについて、路線バスとの競合や接続の利便性向上などについて課題となってきている。これについて、市全体で最適化する方策を検討するとともに、全体として公共交通の利用者を増やすための利用促進を継続実施する。